

48 週 主の聖餐

質問 96. 主の聖餐とは、何ですか。

答え I 主の聖餐は礼典のひとつとして、キリストが定められた通り、パンとぶどう酒を与え、受けることによって、キリストの死が示される見える礼式です。主の聖餐を相応しく受ける人は、肉と情欲に従ってではなく、信仰によって受け、キリストの体と血に参加することで、その方からあらゆる有益を受け、霊的パンを食べ、恵みの中で成長していきます。

質問 97. 主の聖餐を相応しく受けるために、何が要求されますか。

答え I 主の聖餐を相応しく受けるには、自分は、主の御体をわきまえる知識があるのか、主を永遠の命に至る食物として受ける信仰があるのか、悔い改めと愛と新しい従順の心が備えているのかを点検することです。もし相応しくないまま参加するなら、自分に臨むべき審判を飲み食いすることになります。

解説

主の聖餐

聖餐を「主の晩餐」とも呼び(I コリント 11:20)、「主の食卓」(I コリント 10:21)、

「聖晩餐」（Ⅰコリント 10:16）、「祝福のパンと杯」（Ⅰコリント 10:16）とも呼びます。聖餐は、過越祭の奉げ物と緊密に関連されていますが、福音の意味をさらに明確に示すことです（マタイ 26:26、Ⅰコリント 11:23）。それは、過越の羊の血によってエジプトから救われたことを記念し、キリストの血による罪の赦しを示します。キリストは、私たちの過越の犠牲の小羊です（Ⅰコリント 5:7）。

要素

聖書におけるパンは、栄養を供給して私たちの生命を維持させてくれるものです（マタイ 6:11）。キリストはマナについて言及なさいました（ヨハネ 6:50）。キリストの体は、私たちの霊的生活を維持させてくれるだけでなく、とこしえまで持続させてくれます（ヨハネ 6:32-58）。

ぶどう酒は、聖書において喜びを象徴します。ユダヤ人は家族の集いや、社会的な集まりでもぶどう酒を使用しました（ヨハネ 2:3）。そして感謝のいけにえの時もぶどう酒を使用しました（出 29:40）。

勿論、ぶどう酒は悲しみと苦難を象徴したりもします（エレミヤ 25:15、イザヤ 51:17、黙 14:10）。キリストが、私たちの罪を背負い、苦しまれ、血を流されたので、私たちは主の聖餐を通して、贖われたことに感謝することです。

キリストが、主の聖餐を制定なさった時、先にパンとぶどう酒に祝福されました（マタイ 26:26-28、Ⅰコリント 11:23-29）。キリストは、ご自身の体と血を示そうと、一般的な用度の物を聖なる用度として区別させました。キリストがパンとぶどう酒に祝福なさったというのは、救いが成就されたことを表わします（Ⅰコリント 10:16-17、ガラテヤ 3:1）。パンを裂いてぶどう酒を注ぐとは、私たちの罪が赦されたことを表わします。

私たちはパンとぶどう酒を受けます。この時、受けるということは、信仰によ

ってキリストの救いを喜んで受け入れるということ、また神の贖いの恵みを、ただで受けることを記憶することです。そして私たちに、キリストの救いが必要である告白と同時に、罪の赦しと霊的生活と成長のために、キリストを全的に頼るという告白です。

また主の聖餐を共に受け取ることを通して、キリストにあって私たちは結合されていることを認識させてくれます。キリスト者は互いに愛し合い、キリストに仕えるために協力しなければならないことを悟らせます(Ⅰコリント 10:16-22)。イエスは聖餐を終え、共に賛美の歌を歌いました(マタイ 26:30)。キリストにある結合を経験されたことです。

相応しく受けること

主の聖餐に参加することは、教会の会員として特権と義務です。しかし、主の聖餐に参加するなら、いくつか霊的資質が求められます。特に、主の聖餐を受けようとする者は回心した者でなければなりません。彼らの信仰告白が生活と一致しなければなりません。したがって主の聖餐を受け、取る者は、救いの計画に対する知識がなければなりません。自分は何のかけらもない罪人であることと、贖い主が必要であること、キリストの死の効力と赦しを提供してくださることについて知識がなければなりません。また、個人的な信仰告白があるべきです。キリストを個人の救い主として受け入れなければなりません。キリストを個人の救い主として受け入れることです。救いのためにただ、キリストを頼って、キリストを愛し、その方に従順することです。そして主の御体を見極める力が無ければなりません。主の聖餐が象徴することも知っていなければならない、聖霊のみわざによる効果も知っていなければなりません。

従って無知な者と、道徳的に問題がある者は、主の聖餐を受けることができま

せん。バプテスマを受けたとしても信仰告白に相応しく生きない者は、悔い改めの証拠があるまで、聖餐を受けることを保留しなければなりません(ガラテヤ 6:1、I コリント 5:11、マタイ 18:17)。

自己点検

主の聖餐に参加する者には、自己点検が求められます。自己点検とは、自分の霊的状态を自ら省みることを意味します(II コリント 13:5)。主の聖餐に自分は相応しいのかどうかを調べることです。自分の心に悪なものがあるのか、その良し悪しを点検し、また、自分は悪い者たちと共にいるのか、罪惡な働きを凶っているのかどうかを自ら点検することです(詩 139 編)。そして自分は霊的に何が不足しているのかを点検し、自ら恵みの増加を、どれほど慕い求めているのかどうかを確認することです。